



熊本地震被災地への医療救護班活動報告

集中治療部 講師 森口 武史

平成28年4月29日から5月3日にかけて、本院より熊本医療救護班の第1班として南阿蘇に行ってまいりましたので現地での活動を報告します。現地入りした29日の時点で担当する地域には900人以上の方が避難所生活を送っていました。それらに対し180人前後の医療チームが入れ替わり仮設診療所や巡回診療での一般診療、保健師による健康調査、歯科による口腔診察などが行われており、その総括業務を行う本部が私達の活動の中心となりました。本部業務には、各避難所でのインフルエンザやノロなどの感染症発症状況の把握と、公衆衛生状況の監視と改善補助業務がありました。今後の現地の医療システムへの段階的引き継ぎを考え、それら業務の効率化を図り、必要な情報を集めるための労力を劇的に減少させ、現地保健師や診療所への引き継ぎに備えることが出来ました。また、長引く避難所生活や車中生活のためエコノミッククラス症候群の予防と治療が大切であると判断し、まだ実態の把握されていなかった車中泊の状況調査と対策のために対策チームを編成、自らも巡回し啓蒙活動や診察にあたりました。東日本大震災の際に南三陸町で実施した医療支援の経験を生かし、現地のニーズを見極めた活動を心がけ活動を終了しました。

【第1班】

- 森口 武史 (集中治療部 医師)、名取 貴史 (手術部 看護師)
- 山本 雅弘 (ICU 看護師)、萩原 正直 (管理課 事務職員)
- 宮崎 徹 (病院経営企画課 事務職員)、中村 正彦 (総務課 運転手)

《出発式の様子》



右から、森口医師、名取看護師、山本看護師



激励の言葉を述べる藤井病院長



右から、中村運転手、萩原事務職員、宮崎事務職員

《現地の状況》



ハイブリッド手術室が心血管治療の未来を拓く

心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科 科長 中島 博之

本年1月より新病棟が本格稼働いたしました。手術室も大きく拡充しましたが、目玉の一つが県内唯一のハイブリッド手術室です。ハイブリッド手術室とは設置型のX線透視装置を備えた手術室のことで、手術室と心臓カテーテル検査室の二つを統合したものであることから“ハイブリッド”という名がつけられています。これまでは手術室でX線透視が必要な場合、移動式の透視装置を搬入していましたが、操作性や解像度に限界がありました。これに対して設置型は広い視野、高画質で動きも電動で制御でき、より安全にかつ迅速に、そしてより精密な画像を得ることができるようになりました。

さて、腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療は2006年にわが国に導入されましたが、以来約10年、胸部も含めて大動脈瘤治療にはなくてはなら



X線透視装置 (Artis zeego)

ない役割を果たすようになりました。このステントグラフト治療をより安全に施行するために整備されるようになったのが、このハイブリッド手術室です。また心臓弁膜症に対する人工弁置換術に対して、より身体への負担が少ない治療法として期待されているのが、2013年からわが国で始まった経カテーテル大動脈弁植え込み術 (TAVI) です。TAVIを実施するためには病院がハイブリッド手術室を備えていることが必須条件となっています。山梨県にはこれまでハイブリッド手術室がありませんでしたので、TAVIの適応のある患者さんについては東京の病院に紹介していました。今回ハイブリッド手術室の完成によって、山梨県の患者さんは山梨県で治療が完結するように、本院でもTAVIの実施に向けて施設認定を得るべく準備を進めているところです。さらに海外ではTAVI以外にも種々のカテーテルを用いた弁膜症の血管内治療が開発されつつあり、近い将来わが国にも導入されることとなります。こうした最先端の治療のためにもハイブリッド手術室は必要であり、まさにハイブリッド手術室が心血管治療の未来を切り拓くといっても過言ではありません。

大病院受診時の特別な料金について

～診療所や病院を適切に使い分けましょう～

医事課

平成27年5月に成立した医療保険制度改革法により、今年4月から大病院(本院のような特定機能病院・一般病床500床以上の地域医療支援病院)には、地域の診療所などとの連携を進めるなどの責務が規定されました。これにより、患者さんが初診時に紹介状なしで受診する場合及び診療所など他の医療機関を受診するように大病院から紹介を受けても引き続き大病院での受診を希望する場合は、特別な料金を徴収することが義務付けられました。

また、徴収金額も初診の場合は5,000円(歯科は3,000円)以上、再診の場合は2,500円(歯科は1,500円)以上と定められました。

これを受けて、本院では初診時5,400円(歯科は3,780円)、再診時2,700円(歯科は1,620円)を診療費とは別にご負担いただく事といたしました。

ただし、緊急時などのやむを得ない事情のために受診する場合は特別な料金はかかりません。詳しくは、本院ホームページ、院内の掲示をご覧ください。また、ご不明な点は医事課窓口までお問い合わせください。

ヘリポートを活用した患者搬送

総務課

本院は、県内唯一の特定機能病院として、地域医療の支援及び高度医療の提供を担っています。その使命をより確実に果たすため、病院再整備事業を進め、本年1月から新病棟が本格稼働となりました。

また、再整備事業の中では、救急・災害時医療への対応強化も重要なコンセプトとして位置づけ、その一環として新病棟屋上に「ヘリポート」を整備しました。ヘリコプターで搬送された患者さんは屋上ヘリポートから救急部やICU(集中治療室)に搬送され、直ちに救命措置が施されることとなります。近年多発する自然災害や事故等による救急搬送や容態の急変した患者さんを短時間で搬送することが可能となり、急性期医療に大いに貢献できるものと期待が高まります。

なお、屋上ヘリポートにつきましては、本年2月にドクターヘリ、3月には消防防災ヘリによる患者搬送シミュレーションを行い、その安全性が確認され、すでにヘリコプターで搬送された患者さんもおられます。ヘリポートを活用したより迅速な搬送により、一人でも多くの方の生命が救われることを願っています。

就任あいさつ

検査部長・輸血細胞治療部長

井上 克枝



平成28年1月1日付で検査部長・輸血細胞治療部長を拝命しました井上です。私は平成7年に山梨医科大学医学部医学科を卒業後、東京厚生年金病院内科で研修を行いました。山梨医科大学臨床検査医学講座に入局してからは血小板生物学の研究を行いつつ、検査畑を歩んで参りました。現代の医学では、診療と検査は深く結び付いており、よりよい診療を提供する病院にはより迅速で正確な検査を行う検査部門が欠かせません。

検査部では、大学病院ならではの多種多様な検査に精通したスタッフが検査を担当し、検査技術の向上にも鋭意努力しております。当検査部は検査の品質を担保する国際認証であるISO15189:2012を県内で唯一取得しております。これにより、皆様方にお返しする検査結果は国際基準を満たす信頼性の高い検査結果であることが保証されています。また、輸血細胞治療部では、輸血医療の専門家集団が安全で迅速な輸血医療を提供しております。このように、当検査部と輸血細胞治療部は、本院が患者さんに提供する数々の先進医療を下支えしている重要な部門の一つであります。

私は、「常に前進する検査のプロフェッショナル集団」をスローガンに掲げ、金子誠副輸血細胞治療部長・副検査部長、雨宮憲彦技師長とタッグを組み、当部門の一層の品質向上を目指してまいります。

看護部長

佐藤 あけみ



この度、4月1日付けで看護部長に就任いたしました佐藤です。私は様々な診療科での経験を経て、副看護師長・看護師長・副看護部長を歴任してまいりました。その経験の中で、看護師として一番大切な事は「患者さんを支える」という事です。本院の看護師は患者さんの様々な痛み・辛さ・苦しみを感じ、その様な思いをされている患者さんを支える事を大切にしています。本院の看護部の理念は「患者さん一人ひとりの健康問題を解決するために、患者さんと共に考え看護を提供します」です。患者さんやご家族と看護目標を共有し共に考え、医療チームと協働して質の高い看護を提供する事を理念として掲げています。そして、最終的には本院の理念であります「一人ひとりが満足できる病院」を目指しています。この一人ひとりとは患者さんだけではなく、患者さんのご家族や患者さんを取り巻く全ての方々も対象としています。本院の看護師は患者さんやご家族が本院の医療・看護に満足されているかどうかを常に意識しています。そしてこれからも患者さん一人ひとりを尊重し、患者さんやご家族を支えながら、皆さんが本院の医療・看護に対して満足していただける様、努力してまいります。

この度、4月1日付けで看護部長に就任いたしました佐藤です。私は様々な診療科での経験を経て、副看護師長・看護師長・副看護部長を歴任してまいりました。その経験の中で、看護師として一番大切な事は「患者さんを支える」という事です。本院の看護師は患者さんの様々な痛み・辛さ・苦しみを感じ、その様な思いをされている患者さんを支える事を大切にしています。本院の看護部の理念は「患者さん一人ひとりの健康問題を解決するために、患者さんと共に考え看護を提供します」です。患者さんやご家族と看護目標を共有し共に考え、医療チームと協働して質の高い看護を提供する事を理念として掲げています。そして、最終的には本院の理念であります「一人ひとりが満足できる病院」を目指しています。この一人ひとりとは患者さんだけではなく、患者さんのご家族や患者さんを取り巻く全ての方々も対象としています。本院の看護師は患者さんやご家族が本院の医療・看護に満足されているかどうかを常に意識しています。そしてこれからも患者さん一人ひとりを尊重し、患者さんやご家族を支えながら、皆さんが本院の医療・看護に対して満足していただける様、努力してまいります。

副看護部長

杉田 節子



4月より副看護部長を拝命し、業務を担当させていただいております杉田と申します。現場の副看護師長を2セクション、看護師長を5セクション経験させていただき中、折に触れ看護部管理室の方々に支えていただいた実感があります。「現場の師長達が輝けるようにする黒子役が私達の役目よ」と尊敬する副看護部長さんの言葉が印象に残っております。病院の理念である「一人ひとりが満足できる病院」を目指し、現場が困らないよう身近な存在になれるよう、全力投球して行く覚悟しております。とは言え気持ちだけでは役割を果たすことはできません。なるべく早く現場のサポートができるよう日々努力してまいります。

現場が困らないよう身近な存在になれるよう、全力投球して行く覚悟しております。とは言え気持ちだけでは役割を果たすことはできません。なるべく早く現場のサポートができるよう日々努力してまいります。

3階西病棟看護師長

茶谷 直子



4月1日より3階西病棟の看護師長に就任いたしました茶谷です。

3階西病棟は、小児科28床と小児外科2床の病棟です。0歳から中学生までの幅広い年齢のお子様が、治療や検査のために入院されています。ご病気によっては入院期間が長くなったり、苦いお薬を飲まなければならなかったり、痛みを伴う検査をしなければならず、頑張っている姿に心を打たれる反面、遊びや学習を通して日々成長するお子様たちの様子に、健康な一面への支援の大切さも実感しております。医師・病棟保母・ボランティアと協力してお子様の安全を守りながら、お子様の成長への支援ができるよう努力してまいります。

7階西病棟看護師長

牧野 基美



昨年12月26日付で7階西病棟の看護師長に就任いたしました牧野です。

7階西病棟は、血液腫瘍内科、神経内科、緩和ケア病床で構成されています。副看護師長2名と看護スタッフ22名、補助者4名とで協力しながら、患者さんが安心して治療を受けることができ、穏やかに入院生活が送れるように日々奮闘しています。今後も、患者さんやご家族の言葉に耳を傾け、患者さんの望む看護サービスが提供できるようにスタッフ一同努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

6階南病棟看護師長

河西 典子



4月1日より6階南病棟の看護師長に就任いたしました河西です。

6階南病棟は整形外科病棟で、主に腰や膝や股関節などの手術を目的とした患者さんが多く入院されます。入院患者さんが自立した生活が送れるように医師・看護師・理学療法士など多職種で連携を取り、患者さんと目標を共有しながら退院できるように支援しています。昨年末に新病棟に引っ越しを行い、新たな環境で気持ちも新たに、これからも患者さんに安全で安心した医療や看護を提供してまいります。

4階南病棟看護師長

河手 久美



4月1日より4階南病棟の看護師長に就任いたしました河手です。

4階南病棟は眼科単科の病棟で、定数34床です。定時入院は8名から10名位あり、緊急入院も多くあります。以前、90歳過ぎた患者さんが手術をされ、「死ぬ迄自分で見て、感じて、動きたい。手術をして良かった。」と言われてました。いきいきと生きる事を支えたいと、強く思いました。また、どんなふうに見えるのか疑似体験し、どうしたら安心して入院生活が送れる治療環境を提供できるか考えています。一期一会を大事にし、いきいきと患者さんも医療者も一人ひとりが満足できる病棟づくりを目指したいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

4階北病棟看護師長

小泉 夫美子



4月1日より4階北病棟（産科病棟）の看護師長に就任いたしました小泉です。

私は毎年病棟のスタッフと富士山に登っています。長く続く火山灰の砂利道や足を滑らしそうな岩場があり、何度も止めようと思いつつもスタッフと励まし合い、周りの登山をする人達と声を掛け合いながら頂上にたどり着きます。頂上に着いた時の達成感は最高です。登山は分娩を乗り越える過程と似ています。自分が望む分娩をどのように乗り越えていくか考え、家族や医療者と相談し支えられながら乗り越えていきます。それが出来た時は達成感や満足に繋がっていきます。私も患者さんやスタッフなどが達成感が持てるよう関わってまいります。